



対馬丸記念館と、遺族・サポーターを結ぶ、ふれあいの情報誌

対馬丸 通信

発行：(財) 対馬丸記念会
発行人：高良 政勝
編集：対馬丸記念会事務局

Tsushima maru press

平成 22 年 11 月 1 日発行 第 21 号

平成平成 22 年度 対馬丸慰霊祭 かいげん 開眼の儀 〈小桜の塔〉



遺族代表の又吉治子監事



名幸俊海護国寺ご住職



遺族代表の瑞慶山良和理事



慰霊の旅団長 上原清評議員

魂たちが海面に顔を出してきたのか、海が一段と輝き始めた
私は海に向かって立ち、「魂たちよ、海水とボトルに入れよ」と
念じて二つのボトルに魂の海水をいれた
私はその「魂の海水」を魂の故郷、沖縄へ持ち帰った。

対馬丸六十五周忌悪石島慰霊の旅 団長 上原清の報告より

今年の慰霊祭は、昨年の六十五周忌に墓参団として悪石島を訪問し、悪石島沖の撃沈地点で汲み上げた、「魂の海水」を対馬丸犠牲者刻名碑にかけ、小桜の塔に魂をお迎えするという儀式（開眼の儀）を執り行いました。



高良政勝会長



慰霊の旅参加者 儀間真勝氏（生存者）



慰霊の旅参加者 外間邦子常任理事

平成 22 年度対馬丸慰霊祭

8月22日 午後1時30分～ 於 小桜の塔



約百頭のオオゴマダラを旭ヶ丘公園へ放蝶しました



伊波智恵子さんの歌唱で「海の子守唄」が奉納されました



弔辞を捧げる、仲村家春那覇市副市長



何年経っても慰霊の想いは変わりません

今年も遺族・来賓など大勢の弔問客を迎え、対馬丸慰霊祭が厳かに執り行われました。祭りに先立ち、開眼の儀に昨年の悪石島慰霊の旅の報告があり、その折に作られた上原清作詞、普久原恒勇作曲による「海の子守唄」が伊波智恵子さんの歌唱で奉納されました。続いて、「花いっぱい蝶舞う旭ヶ丘公園へ」との願いを込め、首里城下にチヨウを翔ばそう会（大城安弘会長）のご協力で約百頭のオオゴマダラが公園内に放たれました。

高良会長による追悼の言葉の後、来賓を代表して翁長雄志那覇市長（仲村家治副市長代読）による平和への願いを込めた弔辞が捧げられました。



平和を尊ぶ歌を合唱する「クリスタルコールおきなわ」＝那覇市・対馬丸記念館

8月16日 〈沖縄タイムス〉

「対馬丸」しのぶ
いのちの歌合唱
那覇市の記念館で

コンサート」（共催・混声合唱団「クリスタルコールおきなわ」、対馬丸記念館）が15日、那覇市の対馬丸記念館であった。子どもたちの冥福と平和を祈る思いを歌で伝えた。

太平洋戦争中に撃沈された学童疎開船「対馬丸」の悲劇をしのぶ「いのちの歌」を、小学生から80代までで結成される同合唱団。対馬丸を題材にした混声合唱組曲「海のトランペット」対馬丸の子ともたち」や平和を尊ぶ歌で悲しみを表現した。

対馬丸題材に芝居
東京の劇団「結び座」
11年9月、児童らと上演



結い座の狭間鉄代表や脚本家の三枝万祐さんと8月23日、琉球新報社を訪ね、2011年に那覇市の児童生徒と共に上演する予定の同芝居をPRした。

11年9月に那覇市の児童生徒と同芝居を上演すること同23日まで那覇市教育委員会と協議し、決めた。三枝さんは「芝居を通して当時の学童の思いを体験することで、命の大切さを実感してほしい」と思いを語った。

対馬丸の悲劇を伝える演劇「命どう宝」の舞台げいこに励む港区内の児童ら＝東京都港区の赤坂小学校



演劇を指導するのは劇団「結び座（横浜市）。3歳から小学校6年生までの子どもが参加し、プロの俳優9人が指導に当たる。企画・脚本を担当する女優の三枝万祐さんは「対馬丸の生き残りの方と2005年にお会いし、話を聞いて作品にしたい」と思い立ち、脚本化したと話す。07年から上演に取り組んでいるという。

8月29日 〈琉球新報〉

港区の児童「対馬丸」上演

東京で来月18・19日

けいこ通し、命の重さ学ぶ

来年は那覇でも

【東京】1944年、米軍潜水艦の攻撃で沈められた対馬丸の悲劇を舞台化した「命どう宝」（キスポート財団特別共催）の上演に向け、港区内で公募した13校の児童約30人がげいこに励んでいる。プロの劇団が企画し、児童へじかに指導する試みで、これまで7公演を開催した。9月18、19の両日、赤坂区民ホールで上演される。演劇を通して対馬丸の惨事を初めて知る児童もいて、主催者は「舞台を通して命の重さと平和の尊さが着実に伝わっている」と話す。

レクターの狭間鉄さんは「参加児童の親の中には対馬丸の事件をフィクションだったと思っている人もいて、事実を知ってがくせんとする中で親子が話し合い、戦争などに対する考え方を培っていく」と、演劇活動の意義を説明している。来年は那覇市内での上演も予定している。

8月21日 〈沖縄タイムス〉



「対馬丸」演じ平和考える 西原小「やさしさと思いやり大切」

西原小学校（瑞慶山長嶺校）で22日、沖縄戦時の疎開船「対馬丸」の沈没事件を演劇化した児童と教員による演劇の上演があった。慰霊の日にあつた児童会主催の取り組みで、授業参観で来校した保護者らが観覧。同校の児童数を超える学童の犠牲者が出た慰霊の日にあつた平和集会和劇「対馬丸」を上演する児童と教員ら22日、西原小学校

「対馬丸」は、那覇市を出た翌日の1944年8月22日夜、米潜水艦の魚雷攻撃を受けて沈没した。犠牲者は1418人、うち775人は学童だった。

劇は、危険を案じた親戚が子の疎開をためらう中、子どもたちは「音が見られぬ」列車に乗れると、修学旅行気分に乗船。沈没を知った親戚たちが、疎開を勧めた学校長にすがりつき、悲嘆に暮れるという筋書き。

5、6年生と教員が体育館の舞台で主役を担い、4年生は甲板に立って沈没の場面を演出。照明や音響も児童らで担当し、朝と昼一日2回の練習を週間重ねて当日臨んだ。

「対馬丸」は、那覇市を出た翌日の1944年8月22日夜、米潜水艦の魚雷攻撃を受けて沈没した。犠牲者は1418人、うち775人は学童だった。

劇は、危険を案じた親戚が子の疎開をためらう中、子どもたちは「音が見られぬ」列車に乗れると、修学旅行気分に乗船。沈没を知った親戚たちが、疎開を勧めた学校長にすがりつき、悲嘆に暮れるという筋書き。

5、6年生と教員が体育館

対馬丸犠牲者 54人追加刻銘

記念会 情報提供呼び掛け

1944年、米軍の攻撃を受け沈没した学童疎開船「対馬丸」について、20日までに犠牲者54人の氏名が新たに判明し、那覇市若狭の対馬丸記念館内の刻銘板に追加刻銘された。これで、氏名判別犠牲者は計1476人となった。また、20日には遺族ら関係者から寄せられた犠牲者13人の遺

影11枚も新たに展示した。遺族らで構成し、同記念館を運営する対馬丸記念会（高良政勝会長）ではこれまで、同会の犠牲者名簿などを基に、犠牲者を刻銘してきた。

しかし今年1月、名護市が約15年前に発行した戦没者名簿に、刻銘板に未記載の対馬丸犠牲者が記載され



新たに判明した犠牲者を追加した刻銘板と高良会長ら20日、那覇市若狭・対馬丸記念館

ていることが分かり、6月から平和の礎の対馬丸犠牲者名簿を調べるなどして、54人の犠牲者を新たに判明させた。

54人のうち、天妃小と判

明した2人は学童として、学童の年齢だが、学校名が分からない13人は一般疎開者として出身地別に刻銘した。出身地別では、名護市が最多で21人、那覇市10人、読谷村9人、大宜味村5人、国頭村3人、今帰仁村2人など続いた。

20日に会見した高良会長は、「氏名が判明したことで、犠牲になられた方への供養になる」と話した。また、「対馬丸の犠牲者は1500人以上といわれており、まだ氏名が不明な方もたくさんいる。今後も犠牲者の情報を寄せてほしい」と呼び掛けている。

6月23日 〈琉球新報〉

6月20日 〈琉球新報〉

戦争しないこと訴え 対馬丸引率教員の糸数さん

小椋南小

23日の慰霊の日を前に、考えるをテーマに講演した糸数さんは、疎開のため面親を説得しに家庭訪問したことで、航路での経験なことを振り返った。引率されたのは教員採用されて初めて担った那覇国民学校高等科の生徒だったという。

沈没事件当日は波立つ海から「お父さん、お母さん、助けて」という声が届いてきた。夢に出てくることもあるという経験や語り。魚雷が当たった。暗く



糸数裕子さん



糸数裕子さんの話を聴く児童ら。22日、那覇市の小椋南小学校

城北小で平和集会

23日の慰霊の日を前に全校児童で平和について考えようとする那覇市立城北小学校（富山のぶ校長）で18日、平和集会在開かれた。学童疎開船対馬丸事件の生存者、儀間真勝さんが当時の生々しい体験から「家族が平和の原点だ」と児童らに訴えた。児童らは「いろいろな国の人と仲良くしたい」などのメッセージとともに平和への願いを歌に込め、6月の空に歌声を響かせた。



対馬丸事件の体験を語る儀間真勝さん。18日、那覇市立城北小学校

儀間さんは、事件が起きる1944年当時、垣花国民学校の6年生だった。米軍の魚雷攻撃で、対馬丸が船尾から沈んでいく様子や、助けを求める悲鳴が夜通し聞こえていたことなどを児童に語り掛けた。そして「平和について家族で話し合うことで、地域や学校に思いが広がり、次の世代へと平和はつながっていく」と話した。

児童らは、この平和集会

「家族が平和の原点」 対馬丸生存者の儀間さんが講演

緋戦の悲惨さや命の尊厳などを学んできた。そこで感じた平和への願いを手話や世界各国の国旗を掲げるなど、学童（こども）に工夫しながら、歌を通して発信した。事前学習で対馬丸事件に関するビデオを見た金城美紀さん（4年）は「儀間さんの話を聞いたり、『月桃』の歌を歌ってから戦争をなくしたい気持ちも湧いてきた」と話した。

3年生と5年生の孫の発表を見ていた新崎善清さん（73）は「那覇市は戦争を知らない世代、その恐ろしさを伝えていくことは非常に大切。子どもたちが平和を願う気持ち

鳩山総理来館

鳩山由紀夫前総理が在任中の5月23日、忙しい公務の合間をぬって対馬丸記念館に来館され



熱心に遺品を見つめる鳩山総理

ました。小桜の塔に献花後、高良館長と生存者の儀間真勝さんに案内され、館内の展示を一つひとつ熱心にご覧になられているのが印象的でした。

対馬丸記念館日誌

イベント

□7月23日

第14回特別展 対馬丸に寄せる平和のメッセージ展「僕のわたしの対馬丸」が夏休み期間を通して行われました。これは、開館以来過去5年余りの間に寄せられた、壁新聞や感想文、絵画や平和の約束などの寄贈されたものをあらためて展示して、広く平和をアピールしようと企画されたものです。

オープニングセレモニーでは、館長挨拶の後、若狭チムドンドン太鼓の皆さんによる勇壮なエイサー演舞が奉納され、続いて対馬丸に関する詩二篇が真壁小

学校6年生の金城あいみさん、照屋希之薫さん、の朗読で披露されました。

引き続き朗読の二人に加えて、与那嶺明里さん（天妃小学校5年）、国吉真央君（若狭小学校6年）、野原樹里佳さん（ガールスカウト）、饒平名彩宙さん（那覇中学校1年）と高良館長がテープカットを行い、高らかに鳴り響くファンファーレとともにテープが切つて落とされ、展示が公開されました。



照屋希之薫（ののか）さん



金城あいみさん



児童によるテープカットで開幕しました



勇壮なエイサー衣装に身を包んだ「若狭チムドンドン太鼓」の皆さん



対馬丸に関する色々な想いが展示されました

□ 8月15日
「いのちの歌コンサート」(共催・混声合唱団クリスタルコールおきなわ)が企画展示室で催され、今年も合唱組曲「海のトランペット」が館内に響き渡りました。



介し、現在の福祉の問題提起もいろいろそれぞれに自覚を促す、とても良い講演会でした。



視察

□ 10月3日

第15回ちやーがんじゅー講座
幸せは歩いてこない だから歩いてゆくんだよー「体の健康、心の平和」の講演会が琉球新報の人気コラム「落ち穂」に執筆中の伊原名夏子さんを迎え行われました。
伊原名さんは、障がいを持ちながらも、車いすで海外に留学するなどアクティブに活動されています。彼女のそんな前向きな姿勢に会場に詰めかけた百五十人余の聴衆は感動の渦に包まれました。
子どもの中にとけ込むと、子どもたちは必要な人には自然に手を差し伸べてくれるということを紹介

□ 6月23日

内閣府福下雄二審議官が慰霊の日の日全沖縄戦没者追悼式後の忙しい時間をさいて記念館を訪れ、高良会長、宮城特命アドバイザーと親しく懇談され対馬丸記念館への御理解を深めていただきました。



□ 6月27日

内閣府沖縄振興局 吉任啓作参事官(現内閣府賞勲局審査官)

□ 8月9日

内閣府 大辻義弘沖縄振興局長

□ 8月10日

内閣府沖縄振興局 山谷英之参事官

□ 9月6日

総務省 須江雅彦官房審議官(人事・恩給局担当)

トピックス

□ 3月15日

昨年の開館五周年の際にリニューアル費用の一部を寄付していただいた、(財)沖縄県女師・一高女ひめゆり同窓会(本村つる理事長)を訪問。リニューアルのお礼と新ガイドブックを贈呈いたしました。

□ 4月25日

TBSのニュース23クロスの対馬丸特番取材でタレントの綾瀬はるかさんが来沖、生存者の糸数裕子さんへの取材前の早朝、小桜の塔を参拝されました。

□ 8月20日

新たに判明した54人の犠牲者名を館内刻名板へ追加。これにより、氏名判別犠牲者数が1476人となりました。

着任

□ 6月1日

宮城清志(財団法人対馬丸記念会特命アドバイザー) 沖縄県の実務派職員として要職を歴任した経験から、公益法人移行等への業務を担当します。

ご寄付

□ 7月4日

琉智歌謡スタジオ様
'07より対馬丸記念館に寄付金を寄せていただいている琉智歌謡スタジオの発表会において、生徒の皆さんによるワダツミー対馬丸に寄せてーの合唱が披露され、琉智さんから高良会長に寄付金が贈呈されました。



□ 3月24日〜10月15日



60周年事業で制作した、儀間比呂志作の紙芝居「りゅうとにわとり」と寄付金が同社代表取締役の外間政春社長から寄贈されました。

□ 8月25日

玉城節子琉舞道場様
玉城流翔節会チャリティー発表会の収益金からこのほど寄付金の贈呈がありました。これは、会主の玉城節子さんが遺族でもあり、ご芳志を賜りました。実行委員会の皆様とともに来館され館長に託されました。



□ 9月15日

光文堂コミュニケーションズ(株)様
今年、創立60周年を迎えた光文堂コミュニケーションズ株式会社(旧社名光文堂印刷)から、創立

写真報告以外にも、以上の方々からご寄付を頂戴いたしました。心よりお礼申し上げます。

ASC、みやぎ歯科、南風原愛子、前田サービズ岡山、居相淳子、日本アドバンスシステム/重田辰弥、大森節子、平良真八税理士事務所、嘉数昇明、渡口眞常、瑞慶覧達次、山本綾香、たから歯科、嶋田玲子、浜崎盛秀、儀間真勝、沖縄友の会、上原妙、友寄賢吉、だん王保育園、宮城初枝、琉智歌謡スタジオ、(株)M・A・P、外間邦子、源河千恵子他10名、嶺井憲子、島尻英子、幸喜つね子、津波古ヒサ、屋比久嘉光、ガジャンピラ会/渡慶次正一、富原キヨ、宮城マリア、慰霊祭香典、玉城節子琉舞道場、新崎美津子、OKE、光文堂コミュニケーションズ(株)、亀島博、平良啓子、NPO法人沖縄ハイサイネット